

第4回サイエンスカフェ茨城報告書

日時：① 令和2年01月09日(木) 14:00～16:15

② 令和2年01月16日(木) 14:00～16:45

場所：① 大洗わくわく科学館

② ひたちなか商工会議所

議題：第1部〔講演〕

高レベル放射性廃棄物の地層処分

講師：① 原子力発電環境整備機構 坂田英紀氏

② 原子力発電環境整備機構 富森 卓氏

第2部〔卓話〕

② 五浦で岡倉天心が飲んだボストンコーヒー

② 世界3大ゲイシャコーヒーと言われるコロンビア・ゲイシャ
コーヒーを自分で入れて飲みましょう

講師：サザコーヒー会長 鈴木誉志男氏

出席者：①参加者：19名(男性4、女性15)

②参加者：第1部15名(男性5、女性10)、第2部23名(男性9、女性14)

配布資料；

- (1) 第1部；「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」(パワーポイント原稿)
- (2) 第2部；「岡倉天心とボストンのコーヒー」 珈琲と文化
- (3) サイエンスカフェ茨城アンケート用紙

報告事項：

1. 挨拶

中村事務局長から、第4回開催の挨拶、配布資料の確認、講師紹介があった。
最終回にあたり、飯島実行委員長の参加者と講師に対するお礼の挨拶があった。

2. 第1部〔講演〕

パワーポイントを用いて、高レベル放射性廃棄物の現状と処分の必要性、国内廃棄物の発生量、高レベル放射性廃棄物とガラス固化体・管理、地層処分の基本的考え方及び安全確保の目標と方策、「人工バリア」と「天然バリア」、十分な安全性評価、処分地選定のための調査・評価、処分地選定の進め方、最終処分に関する取組のこれまでの経緯、「科学特性マップ」作成に用いる要件・基準・公表、同提示後の対話活動、経済社会的観点からの検討、諸外国の状況、地層処分事業の経済社会的影響等の話があった。

質問Q；処分地候補として無人島などは考えられないか？

A；日本列島には多くの島が存在し、火山帯に含まれるものが多いけれど
そうでないものもあり可能性はある。

3. 第2部〔卓話〕

① コーヒーの味として、いいコーヒーは果物（オレンジなど）の香りがする。

日本人には“だし”文化があり、アメリカ人は“誰もが納得する基準”で評価する。ゲイシャ村で改良を重ね良い豆を育て、良い品種にしていく。

② 「ゲイシャ・コーヒー」は世界的に高価なコーヒーとして定評があり、ベストオブパナマ品評会において、年々落札価格の高騰が続き、2019年には1,000ドル/lbを超えた。スペシャルコーヒーの評価は10項目の採点により決まり、パナマゲイシャコーヒーは95点の高得点を獲得している。その10項目とは、①アロマ、②フレーバー、③スイート(甘味)、④アフターテイスト(後味)、⑤アシディティ(酸味)、⑥ボディ(コク)、⑦一貫性(ユニホーム)、⑧マウスヒュードル(口の中の重み)、⑨バランス、⑩総合的である。「ゲイシャ・コーヒー」は現在世界中で栽培されていて、(株)サザコーヒーは栽培をしており、多くの産地の豆を最も多く集めている。そもそも「ゲイシャ・コーヒー」の原産はエチオピアのゲイシャ村にあり、パナマは年間約4,000mm降雨地帯で普通のコーヒーは根腐れ病発生などで適さなかったが、ゲイシャコーヒーの栽培は地中深く根が張り成功を収め、品評会にて10年間トップの座を獲得しているなどの話があった。

その他、コーヒーの歴史、焙煎が取り入れられてきた経緯など、またコーヒーの味わい方、特に、ゲイシャコーヒーは「甘さと香り」が高く、「頭でも味わえる」コーヒーなどと強調された。

今回は最終回でもあり、コーヒーの飲み比べとし「ゲイシャ・コーヒー」3種、普通のコーヒー1種、合計4種のコーヒーが振舞われた。

- ①パナマ産「パナマ・ゲイシャコーヒー」<品評会にて10年間トップを維持>
- ②エチオピア・ゲイシャ村産「ゲイシャコーヒー」
- ③コロンビア・(株)サザコーヒー農園産「ゲイシャコーヒー」
- ④イズラコーヒー<五浦の岡倉天心ゆかり>

アンケート結果

① 参加者数：19名 アンケート回収数：18名

第1部：よく理解できた(5%) + 理解できた(50%) = 55%

第2部：よく理解できた(22%) + 理解できた(61%) = 83%

回答者：男性(28%)、女性(67%)、年代：40歳代(11%)、50歳代(11%)、60歳代(22%)、70歳代(50%)

② 参加者数：20名 アンケート回収数：14名

第1部：よく理解できた(57%) + 理解できた(29%) = 86%

第2部：よく理解できた(36%) + 理解できた(50%) = 86%

回答者：男性(29%)、女性(64%)、年代：30歳代(7%)、40歳代(21%)、50歳代(29%)、60歳代(29%)、70歳代(14%)

主なご意見

<第1部>

- ・このような機会を増して1人でも多くの人に現状を理解してもらうことによっ

て処理工程（場所）を含めて進めるのではないかと、カフェに来て良かったです。
・高レベル放射性廃棄物の処分方法の国際的に様々な処分方法が検討された経緯。深い地層での処分をすることについて理解できた。

・地下 300mでの施設の建設は技術的にも費用面でも難しいことに加えて計画そのものが地元の理解を得るといふ最難関を越えられないでいる現状について詳しく勉強になりました。

・今まで詳しく勉強した訳ではなかったが、本日の講義はとても分かりやすい内容で理解できた。

・話を聞いて知らなかったことが分かってよかった。

・ニュースにあまり流れていない話が多かったため戸惑った点あり。

・処分場 OK する自治体は恐らくないのでは？

それは安全と言っていた原発が事故を起こしたから。

・放射性廃棄物の現状と進行具合が良く分かった。

<第 2 部>

・最高級のコーヒーを少量ではあるけれど飲み比べて良かった。違いが理解できた。

・最高のコーヒーの味が理解できて幸せです。今まで飲み比べは出来なかったので、参加出来て良かったです。

・ゲイシャコーヒーの味はとても美味しかった。ゲイシャはエチオピアのアビシニア地方地名由来の品種名ということも分かった。

・アラビカ種、ロブスタ種の違いは、初めて聞くお話で大変興味深く参考になりました。

・貴重なゲイシャご馳走さまでした。パナマゲイシャを一口飲んだ時の衝撃は忘れなと思います。

・貴重なゲイシャコーヒーを飲む機会を提供いただいてとても良かった。違いが感じられて良かったです。

・実際に美味しいコーヒーを飲み比べて幸せでした。

・知らないことがお話で分かるようになった。

<その他>

・環境に優しいと言われている太陽光などが代替エネルギーになり得るのか否か。

・月 1 回の講座はとても良かったです。また参加したいと思います。ありがとうございました。

企画者の感想：

本サイエンスカフェ茨城の第 1 部は環境・エネルギー勉強会、そして第 2 部はコーヒーを飲みながらの教養講座という二部構成とし、通算 8 回開催した。今回はその最終回「高レベル放射性廃棄物の地層処分」が勉強会の演題（テーマ）であった。

これまで、第 1 回地球温暖化「いま」と「これから」、第 2 回近年の電力事情とさ

まざまな事象について、第3回放射線の話【演示実験】放射線の観察 をテーマとして取り上げ、茨城で活躍されている、水戸地方気象台調査官、電力事業者、原子力従事者の方々を講師にお迎えし、大洗わくわく科学館とひたちなか商工会議所の2箇所で開催してきた。参加者は毎回約20名、延べ人数は160名を超えた。

本企画の目的は、一般市民になじみ難い「地層処分事業」の理解促進である。しかし、いきなりこのテーマで呼びかけても多くの方々に参加して頂くにはかなりの工夫が必要不可欠であった。そのため、まずは身近な異常気象による災害や停電の発生の現状に目を向け、その原因や問題解決について上記のテーマを講師に語って頂くことにした。そして理解が難しい放射線や地層処分の課題については、身の回りの放射線を霧箱で観察したり、参加者に放射線測定器で測って頂いたり、さらには、東海村の地層処分基盤研究施設を見学して頂いた。

この様なきめ細かな企画をほぼ予定通りに実施できた。すべての回に出席された方も数人にのぼり、ある参加者は、“回を重ねるたびに各テーマについての理解が深まり、各課題の重要性が分かってきた。この様な機会があればまた参加したい。”旨を話された。(アンケート 主なご意見 参照)

全8回の「サイエンスカフェ茨城」の企画を振り返ると、第2部において毎回異なるコーヒーの提供を受けながら教養を高める卓話をして頂いたことは“参加者募集”に絶大な寄与をしていることは否めない。第2部の企画も本事業の一環であり、目的達成に重要な役割を果たしていることから、今後は、この様な取り組みに対しても「地層処分事業の理解に向けた自主企画支援事業」の支援が受けられることを切に願っている。

【開催の様子】

大洗地区



第1部 坂田英紀講師による講演風景（大洗わくわく科学館）



第2部 鈴木誉志男講師による卓話風景

ひたちなか地区



第1部 富森卓講師による講演風景（ひたちなか商工会議所）



第2部 鈴木誉志男講師による卓話風景



コーヒーの解説をする講師



お礼を述べる実行委員長

以上